

令和3年 10月 5日

令和3年度 静岡県中学生バドミントン新人大会 感染防止対策ガイドライン

1. 基本方針

本ガイドラインは、日本バドミントン協会策定の「新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン活動ガイドライン(3章バドミントン競技大会・イベント実施にあたって)」を基に、現時点で得られている知見等に基づいて作成しています。今後の感染状況等により、適宜見直すことがあり得ることにご留意ください。

2. 大会の開催にあたって

今大会の開催にあたっては、関係諸機関(静岡県、静岡県バドミントン協会、静岡県中学校体育連盟、開催体育館)等と十分に協議のうえ、本ガイドラインを参照し実施にあたるものとします。ただし、今後の感染状況の変化によっては、急遽大会を中止とすることもあります。

【コロナ感染状況】

- ・静岡県は現在レベル4(ステップ2)です。これは、「感染が拡大している地域への移動を自粛すること(県内移動については制限なし)」となっています。ただし、部活動等の感染リスクの高い活動に関しては感染防止対策が強く求められています。
- ・新しい生活様式に基づく行動の徹底が求められています。
- ・イベント開催制限は、屋内の収容率50%以内、最大5千人まで可能と規定されています。今回開催する「静岡市南部体育館」は、アリーナ入場最大160名、「富士市富士体育館」は、2階観客席を含めると256名となっています。

緊急事態宣言は解除されましたが、引き続き十分警戒が必要な状態にあることには変わりはなく、気を緩めるわけにはいきません。今まで開催してきた大会のコロナ対策を基本に大会運営に臨みます。

そして、静岡県全域から人が集まることがいかに危険なことなのかを全ての大会参加者が十分に認識することが大切です。選手の活躍を見る、応援するというより、選手が安心安全に大会に参加できるような大会運営をサポートするスタッフという意識を全員でもっていただけるように、ご準備願います。

《大会への参加を認めない場合》

- ・大会当日の検温だけでなく、大会開催3日前から大会開催日までに37.5℃以上の発熱(平熱を超える発熱)や、咳、のどの痛み、倦怠感、息苦しさ、嗅覚味覚異常などの症状があった場合
- ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある場合。
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。
- ・大会開催日から2週間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者と濃厚接触がある場合。

3. 大会開催前の留意事項

- 大会前2週間の検温・体調管理は、すべての入場者を対象とする。毎日、健康状態を確認のうえ、「健康チェックシート（セルフチェック用）※提出不要」に体温等を記録し、健康管理を徹底する。それを基に「健康チェックシート（提出用）」を記録し、受付時に提出する。
- 日常から手洗い、アルコール等による手指消毒など感染症予防を徹底する。

4. 大会開催時の感染防止策について

<1> 3密の回避

- 自動車に相乗りで来場をする場合は、車内が密にならないようにすることや、車内ではマスクを着用することを徹底する。
公共交通機関を利用する場合は、常時マスクの着用を徹底し、近距離での会話を控えるなど万全の注意すること。
- 体育館が開場し、事前に示された受付時刻までは、自動車の中で待機するか、十分に間隔をあけて屋外で待機すること。
- 受付では、前の人との間隔を意識し、マスクを着用する。
- 体育館の靴箱や傘立ては使用しない。靴は各自が用意したビニール袋等に入れて観客席まで持ち運ぶこと。
- 観客席は、座る席の前後左右1席ずつあけて使用すること。
(事前に、地区ごとの参観エリアを指定します。)
- 開会式は 閉会式や表彰式については、密に配慮して可能な形で実施する。
(今のところ、開会式(連絡式)はフロアに十分に距離をとった形で行うか、観客席に全員が座った状態で行う形のどちらかで考えている。閉会式は行わず、表彰は、試合終了時に本部で賞状を渡すことで対応する予定である。)
- コールをよく聞き、自分の試合が5試合後に呼ばれる選手はフロア周囲で待機する。ただしその際は選手の間隔を1m以上あけ、必ずマスクをし、会話は控える。それ以上間隔があいている場合、または負け審が終わり、線審に入る予定もない選手は速やかに応援席に上がること。
- プレーに支障の無い窓は常に開けておく。
- 必要に応じて換気の時間（10分程度）を入れる。換気扇は常に稼働させる。
- ウォーミングアップは基本外で行う。その際は距離をあけて行う。
体育館2階や1階のフロア以外の部分でのアップはできない。
- コーチ席は設置しない。コーチングはコート後方にて起立した状態で行う。アドバイスをする際も一定の距離を保ち、必要最小限に短時間で行う。
- ゲーム中のシャトルの受け渡しはできるだけシャトルをラケットに乗せて行い、手を使わないで受け渡すことを基本とする。本部のシャトル係は使い捨ての手袋を着用する。希望があれば、主審にも手袋を配布する。
- 握手、ハイタッチ、抱き合うことを禁止する。
- インターバル表示、得点表示はしない。
- コーチングは1コート1選手につき1名までとする。アドバイスをする監督はマスクを必ず着用すること。
- 写真撮影、ビデオ撮影は可とするが、密にならないように十分配慮すること。
- 片付け時のモップ操作やコート設営、片付けの際は、使用後に必ず消毒する。

<2> 消毒・飛沫防止・拡散防止等

- ・受付、フロアー出入り口、本部にアルコール手指消毒液のスプレーボトルを設置、椅子の周囲には消毒液(次亜塩素酸ナトリウム水溶液)を設置する。

※各チームでも消毒グッズを持参すること。

- ・全ての入場者はマスクを着用する。(マスクは各自で用意する。ただし、気温の上昇により、熱中症を予防するために外すことも考えられる。その場合には、ソーシャルディスタンスをとることや、マスクなしでの会話を控えること。)

※選手は基本、ゲーム中のみマスクを外してよい。

- ・筆記用具(鉛筆)は各自で用意する。審判ボード等の用具は使用したら手指消毒する。
- ・本部役員(シャトル係など必要な係)、準備・片付け関係者は使い捨て手袋を着用する。
- ・ゴミはビニール袋に入れて各自が持ち帰る。(ゴミ袋は各自が用意)
- ・コートサイドカゴは設置しない。ラケットやタオル、水筒等はバックに入れて持ち運び、ゲーム中はコートサイドに置く。
- ・大会中は、自分の外からの応援は行わない。(自分の席以外の場所にとどまらない)また、マスクをしていても大きな声を出しての応援は控える。
- ・ラケット・タオル等の用具の貸借はしない。
- ・床の汗拭きは、モップもしくは所定の用具を使用する。
- ・汗をコート内やコートサイドに投げない。
- ・シューズの裏を手で拭かない。
- ・試合中、意図的な声出しを極力しない。
- ・応援は、声を出さず拍手で行う。

<3>大会当日の留意事項

①今大会、体育館内に入場できる者は次の通りとする。

選手(男子、女子同時に試合を行います) 監督、入場許可申請者、大会役員
(審判等、監督・入場許可申請者を兼ねない者。必要に応じて)

- ・保護者の入場は、体育館収容人数の関係から認められません。
また、駐車場も確保できないため、保護者は送迎のみで対応をお願いします。
(監督・入場許可申請者の駐車場は確保したいと思いますが、現在の状況では各校1台のみ駐車可能となる可能性がある。【現在交渉中】)
可能な限り公共交通機関を使っでの参加があります。

②選手・観戦者・チームスタッフ・大会役員の健康チェックと入場確認の方法

(1)各チームで、事前送付された入館証を印刷し、選手とチームスタッフに配布し、必要事項に記入もれがないかを各校、各チームで責任をもってチェックする。

(2)各チーム指定された期日までに事前提出名簿を提出する。

※事前に名簿に記載されていない方の入場はできません。変更は大会前日まで受け付けます。

(3)入館証は、1枚ずつ切り離し、必要事項をすべて記入し、当日の健康チェックを行った後、半分に折り、IDカード入れに入れて大会当日に持参する。

※IDカード入れは、首から吊り下げるタイプのを各自で用意する。吊り下げしていない方の入場はできません。

(4)大会当日、IDカードを首から吊り下げた状態で一人ずつ受付する。受付では、事前に提出された各チームのIDカードの氏名と「参加者名簿」を照合、検温し、異常が

なければ入場する。

(5) チームの代表者は、「健康チェックシート」を本部のチーム受付に提出する。

その時に学校またはチームごとに参加費も支払い、棄権選手も報告する。

(6) 地区ごとに指定された観客席に座る。(富士体育館)

③ 線審は各自で帯同すること。必要に応じて申請すれば、監督または入場許可申請者、引率保護者以外でも体育館内に入場することを特別に認める。

④ 競技上の注意および審判上の注意については、事前にメールやブログ等に掲載する。不明な点については、事前に大会事務局へ質問すること。

⑤ 自身の試合・負け審判等の役割等が終了し、知人の線審帯同がない選手は、可能な限り帰宅することを推奨する。

⑥ 食事は会場内では極力摂らないこと。摂る場合は無言で、感染に十分注意した状態で速やかに摂ること。複数の場合は、できるだけ少人数で、向き合わない形で摂ること。(お弁当ではなく、栄養補助食品等で短時間に済ませることが望ましい)

<4> 競技中の留意事項(審判について) (監督者会議資料と重複するものもあります)

① 審判は主審、線審(2人)で行い、得点表示係は置かない。

サービスジャッジは今大会では配置しない。

② 主審、線審、サービスジャッジは、マスクを着用し、適宜手指消毒を行う。

③ 主審はマスク着用の上で、選手に聞こえる声ではっきりコールして試合を進める。線審もアウトのジャッジでは聞こえる程度の大きさで声を出して良い。

④ 主審は自分の筆記用具を用意し、記入する。

無い場合は筆記用具使用后、速やかに手指消毒を行う。

⑤ 試合終了後、負けた選手はスコアシートのついたバインダーを主審から受け取り、本部まで提出する。提出後、手指消毒を行った後、新たな試合のスコアシートを受け取る。

⑥ 選手同士や審判員との握手は行わない。

⑦ マッチ終了後に線審の選手はコートにモップをかける。モップをかけた後は手指消毒を行うこと。

⑧ 勝者サインは自分の筆記用具で記入する。無い場合は筆記用具使用后、速やかに手指消毒を行う。

⑨ 対戦終了後は、主審は、競技関係用器具類を消毒する。線審のイスは用意しない。起立した状態で線審を行う。

<5> 主催者対応

① 受付場所、入場導線上等には、アルコール等の手指消毒液を設置する。

② 人が対面する箇所には、できる限りアクリル板や透明ビニールカーテン等の遮蔽物を設置する。

③ 共用物品は定期的に消毒を行う。

④ トイレや入場口取手など、複数の人が触れる箇所については、こまめに消毒を行う。

⑤ 競技区域の備品は、毎試合ごとに消毒を行う。

⑥ 受付時には、マスクおよび手袋の着用を行う。また、領収書等の受け渡し時には、一旦机に置いたものを受け取ってもらうなど、接触を避ける対応を行う。

⑦ 会場内を定期的に巡回し、消毒液の残量チェックとともに、参加者同士の密状態が発生しないよう、誘導等を行う。

⑧ 感染者が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しつつ、大会当日に大会関

係者から提出された書面や大会申込用紙などの関係書類を、1カ月以上は保管する。
＜7＞不幸にも大会開催中関係者の感染が判明、もしくは感染が疑われる場合の対応
(大会関係者＝選手、監督、大会運営役員、審判補助員等会場に入った全ての人を指す)
大会期間中に感染が判明、もしくは感染が疑われる症状が発生した場合には、大会責任者に報告のうえ、開催地の行政機関および担当保健所の指示のもと、然るべき対応をとることとする。また、感染拡大を防ぐために下記の対応を行うこととする。

- ①大会直前の体調不良等で試合を棄権する場合は、来館せず大会事務局へ連絡することとする。大会責任者へ報告の後、農耕接触の疑いがあるなど、場合によっては保健所の指示を受け大会本部並びに所属校もしくは所属チームに連絡をとり対応する。
- ②来館後、体調不良等が発生した場合は、監督を通じて大会本部へ連絡する。
- ③感染が疑われる症状(発熱、咳、咽頭痛等)がある場合には、別に用意する控室(個室)等で隔離のうえ、待機とすることもある。
- ④感染者および濃厚接触者と特定された者の出場(入場)は認めない。また、感染が疑われる症状がある場合も同様とする。
- ⑤感染拡大が懸念される場合には、関係各所と協議のうえ、試合の途中であっても中止とする場合がある。
- ⑥大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、速やかに濃厚接触者の有無等について大会事務局へ連絡すること。
- ⑦会場地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合についても大会事務局経由で、大会関係者へ連絡する。

【参考資料】

- ・『新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン活動ガイドライン(3章バドミントン競技大会・イベントの実施にあたって)第2版』
(令和3年2月8日公益財団法人日本バドミントン協会)